

森林生態系保護地域

早池峰山周辺森林生態系保護地域【北上川上流】（盛岡）

葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域【北上川上流】（盛岡）

※【 】：森林計画区名、（ ）：森林管理（支）署名

観点1 デザイン

基準：気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林を主体とした森林が維持されている

指標：原生的な天然林等の構成状況

○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成がどのように変化しているか、保全利用地区においては、天然林への移行が進んでいるか

- ・資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が原生的な天然林たるべき状態にあるか

- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況の観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

観点2 価値

基準：森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている

指標：野生生物の生育・生息状況

○調査項目1：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 種数は豊富か、外来種や特定の植物のみが増えていないか

- ・森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察

○調査項目2：野生動物の生息状況調査

[評価の観点] 地域の気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林として着目すべき野生動物が生息しているか

- ・動物調査：自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生動物の生息状況を記録

観点2 価値

基準：森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている

指標：森林の被害状況

○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか。被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り



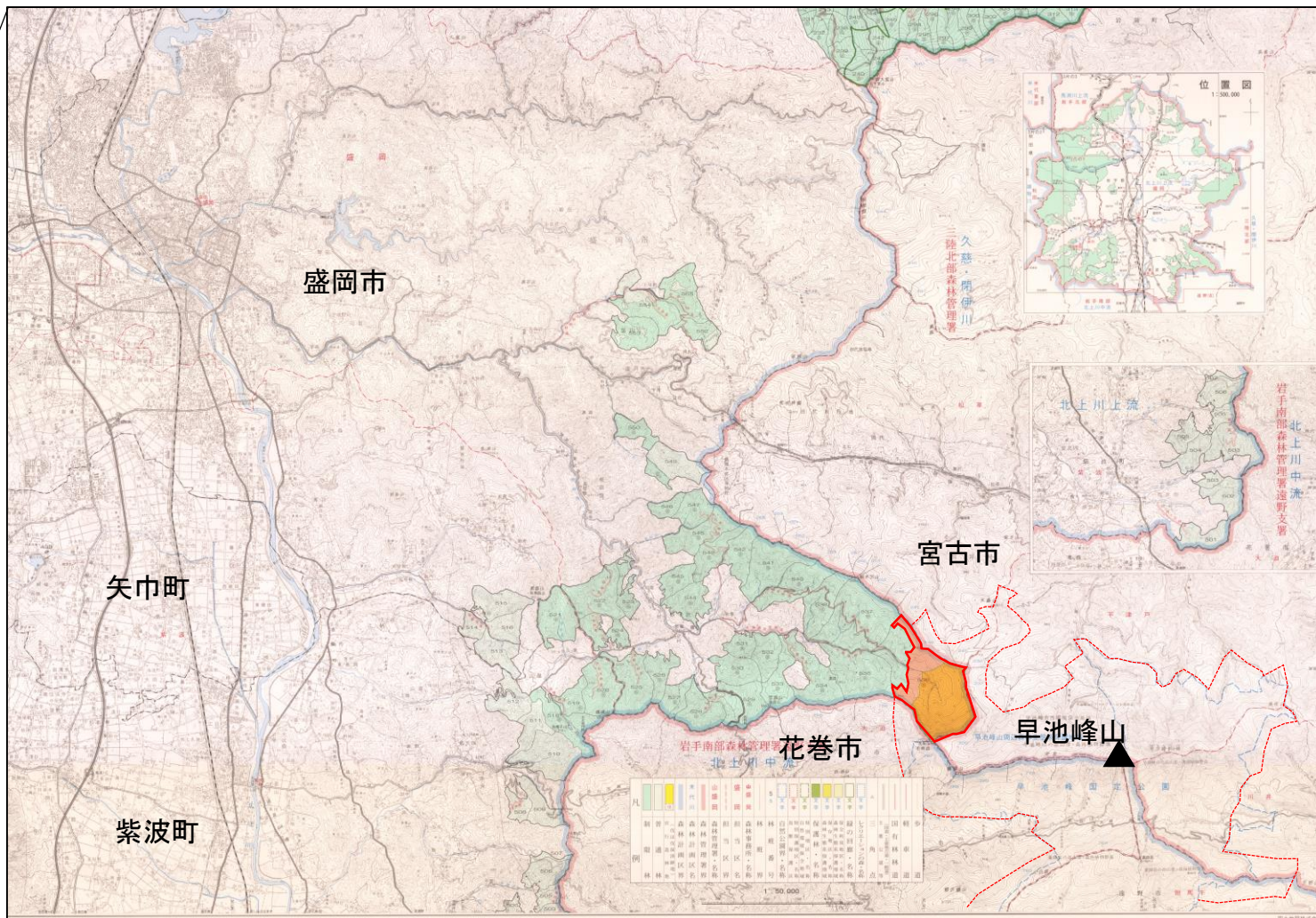
早池峰山周辺森林生態系保護地域
【北上川上流森林計画区】

早池峰山周辺森林生態系保護地域（北上川上流森林計画区）

[概要]

- ・ 位置 岩手県盛岡市毛無森国有林
- ・ 個体群 ブナ及びヒバを主体とする原生的な天然林、固有種を含む高山植物

- ・ 面積 480.78ha（北上川上流森林計画区）
※8,144.71ha（全体）
- ・ 法指定 水源かん養保安林
- ・ 署 等 盛岡森林管理署



観点1 デザイン

基準：気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林を主体とした森林が維持されている

指標：原生的な天然林等の構成状況

○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

〔評価の観点〕 保護林内及び周辺の森林タイプの構成がどのように変化しているか、保全利用地区においては、天然林への移行が進んでいるか

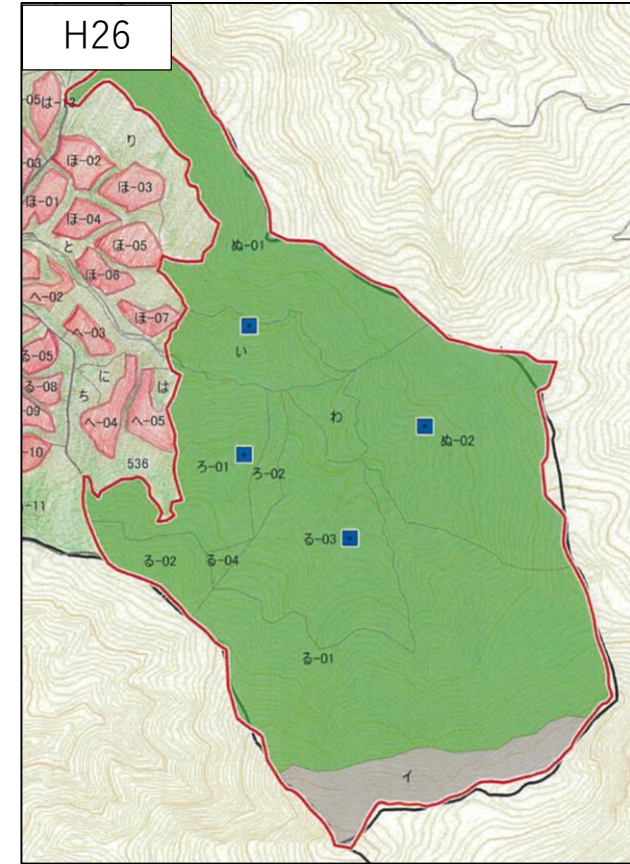
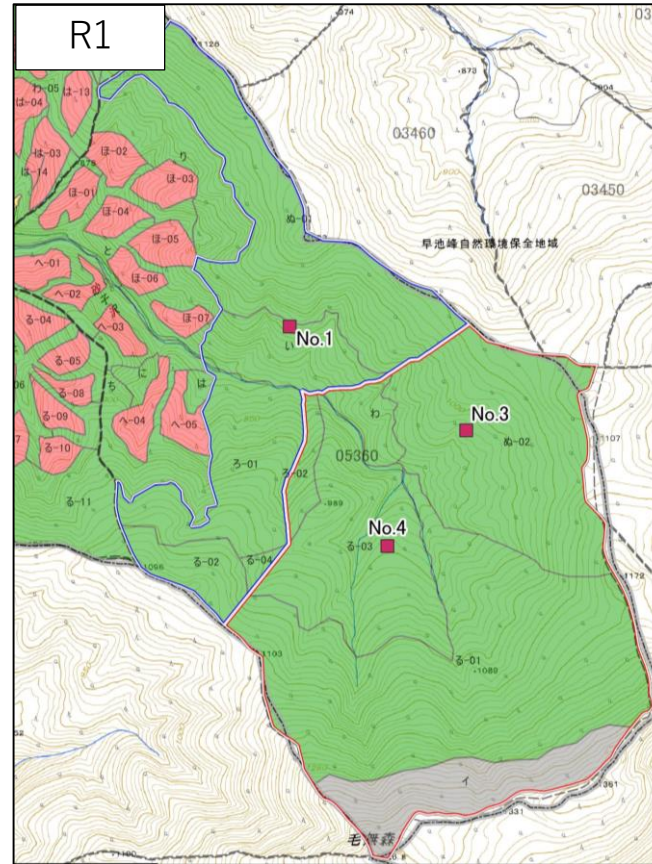
- ・ 資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

○調査項目2：樹木の生育状況調査

〔評価の観点〕 樹木の生育が原生的な天然林たるべき状態にあるか

- ・ 森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況の観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

▼ 森林タイプの分布状況



凡例

- 森林詳細調査プロット
- 森林生態系保護地域: 保存地区
- 森林生態系保護地域: 保全利用地区

森林タイプ

- 国有林: 天然生林
- 国有林: 育成天然林
- 国有林: 人工林1(樹齢21年生以上)
- 国有林: 人工林2(樹齢20年生以下)
- 国有林: 林地外

- 林班界
- 小班界
- 市町村界
- 県境界

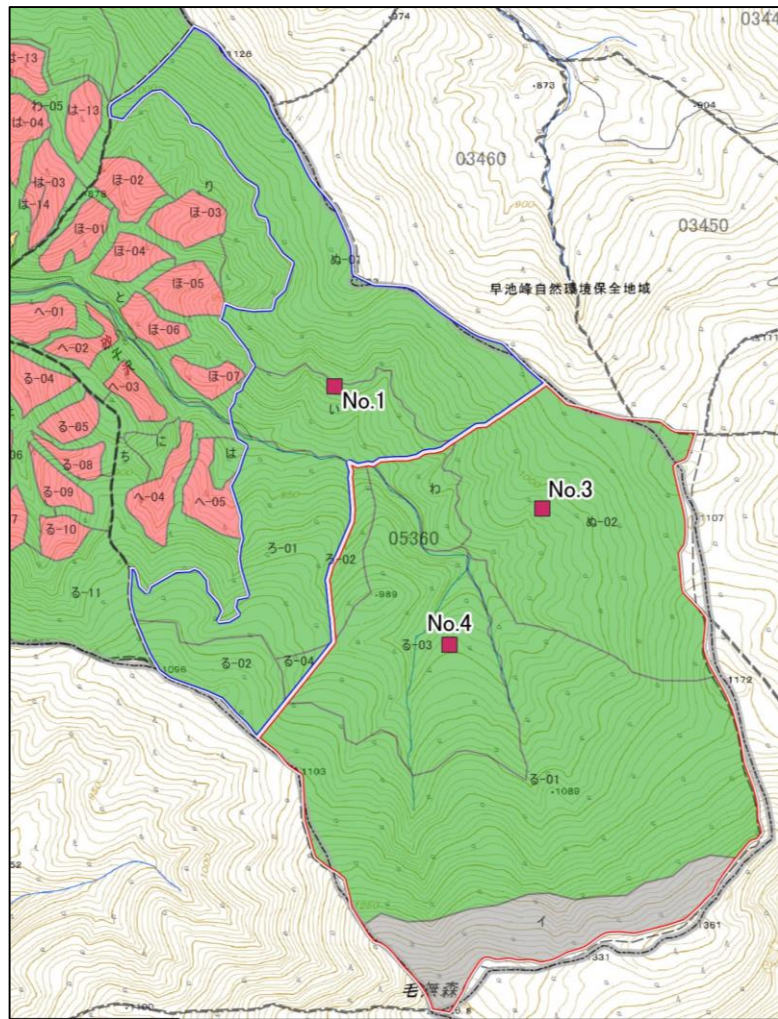
下図画像: 国土地理院の電子地形図(タイル)を使用

保護林区域 内訳	R1		H26	
	保全利用 地区	保存地区	保全利用 地区	保存地区
天然生林	161.59ha	287.57 ha	161.59ha	287.57 ha
育成天然林	—	—	—	—
人工林1	—	—	—	—
人工林2	—	—	—	—
林地外	—	31.62ha	—	31.62ha
合計	161.59ha	319.19ha	161.59ha	319.19ha

保護林及び周辺の森林
タイプの分布に変化は
確認されなかった

※類似林分と見られるプロットについては、効率的な事業執行の観点から、一方を調査対象としなかった。

▼樹木の生育状況



樹木の生育状況に目立った変化は確認されなかった



プロット1



プロット3



プロット4



プロット1 全天球写真

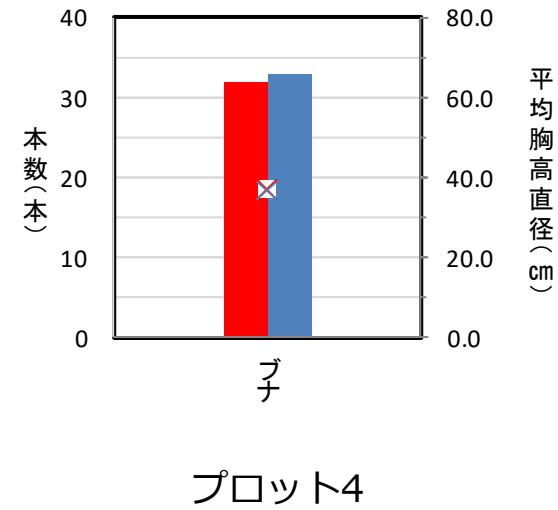
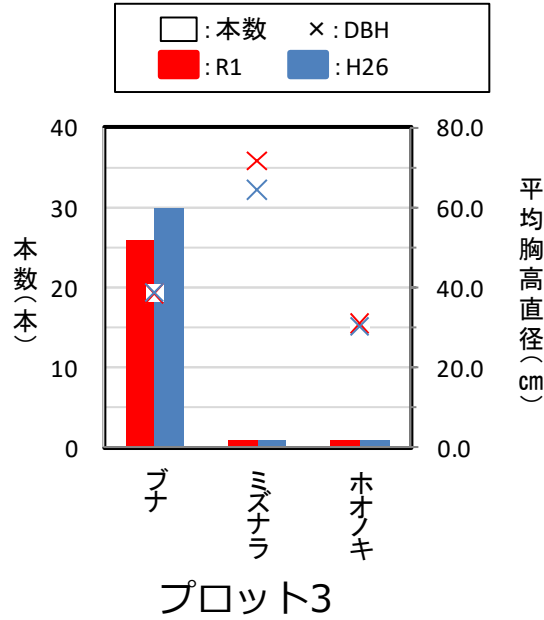
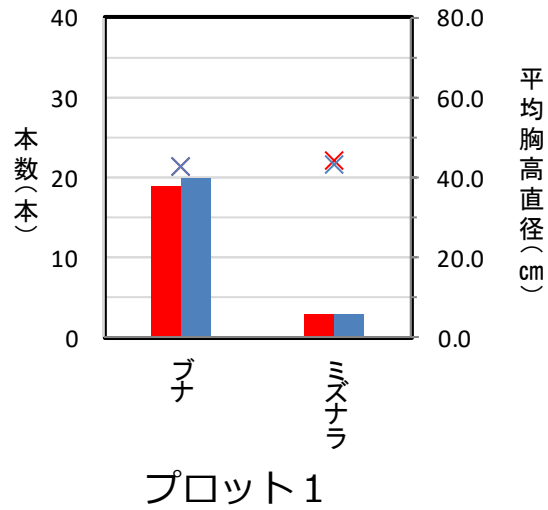


プロット3 全天球写真

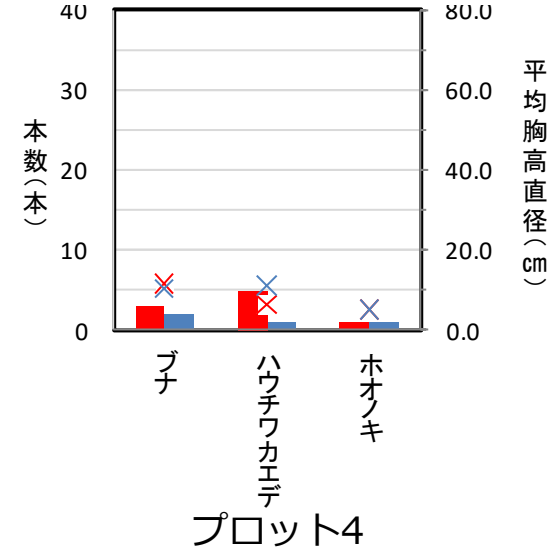
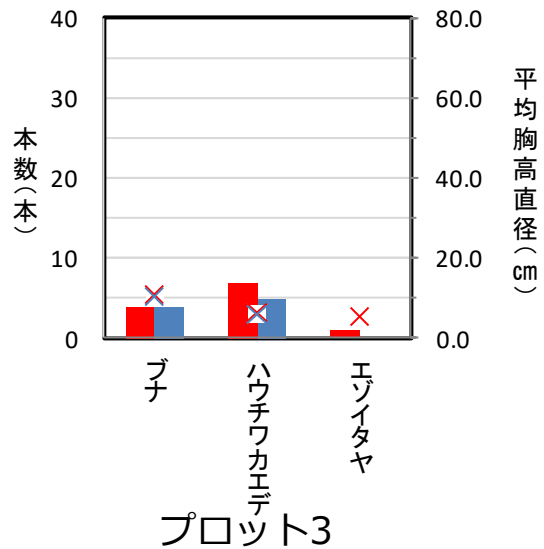
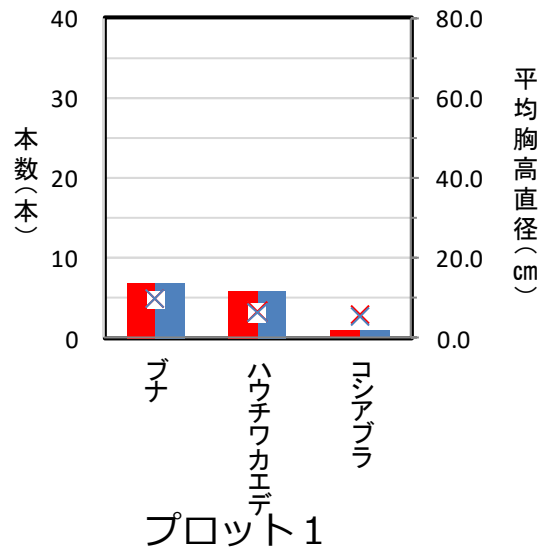


プロット4 全天球写真

▼樹木の生育状況



大径木の樹種別の本数・胸高直径



中径木の樹種別の本数・胸高直径

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

デザインに関する評価

- 基準：気候帯又は森林帯を代表する原生的な天然林を主体とした森林が維持されている
- 指標：原生的な天然林等の構成状況

- ・ 森林タイプの分布に変化は確認されなかった
- ・ 樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

観点2 価値

基準：森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている

指標：野生生物の生育・生息状況

○調査項目1：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 種数は豊富か、外来種や特定の植物のみが増えていないか

- ・森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察

○調査項目2：野生動物の生息状況調査

[評価の観点] 地域の気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林として着目すべき野生動物が生息しているか

- ・動物調査：自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生動物の生息状況を記録

▼下層植生の生育状況

種名	プロット1		プロット3		プロット4	
	R1	H26	R1	H26	R1	H26
ブナ	○	○	○	○	○	○
オオバクロモジ	○	○	○	○	○	○
ツルシキミ	○	○	○	○	○	○
ハウチワカエデ	○	○	◎	○	◎	○
オオカメノキ	○	○	○	○	○	○
コシアブラ	○	○	○	○		○
ハイヌツゲ		○	○	○	○	
ミズナラ		○	○	○		
コミネカエデ	○				○	
ケアオダモ	◎	○				
ホオノキ				○		○
アズキナシ		○				
シシガシラ		○				
ハイヌガヤ				○		
ツノハシバミ				○		
ウリハダカエデ				○		
ツルツゲ				○		
ノリウツギ					○	
ナナカマド					○	
ホソバトウゲシバ					○	
シラネワラビ					○	
ウワミズザクラ						○
チシマザサ	◎	○	◎	○	◎	○
イワガラミ	○	○		○		○
スゲ属の一種	○	○		○		
ツルアジサイ	○		○			
オクモミジハグマ		○				
種数	12種	15種	10種	16種	12種	10種



プロット1



プロット3



プロット4

下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった

注1) H26年度はプロット内全てが、R1年度はN区,S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。

注2) ○：確認種、◎：優占種(R1のみ)

▼野生動物の生息状況（哺乳類）

自動撮影カメラによる記録

No.	科名	種名	R1	H26
1	イヌ	ホンドタヌキ	○	○
2	クマ	ツキノワグマ		○
3	イタチ	ホンドテン	○	○
4	ジャコウネコ	ハクビシン	○	
5	シカ	ホンシュウジカ	○	○
6	ウシ	カモシカ		○
7	ネズミ	ネズミ科の一種	○	
8	ウサギ	トウホクノウサギ		○
計			5種	6種

※ニホンジカの撮影枚数
 H26 22枚
 （撮影期間 H26.8～9）
 R1 726枚
 （撮影期間 R1.6～7）

ニホンジカが多く確認された

▼野生動物の生息状況（鳥類）

ラインセンサスによる出現種

No.	目名	科名	種名	R1	H26
1	ハト	ハト	キジバト	○	○
2	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	○	
3	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○	○
4			アカゲラ	○	○
5			アオゲラ		○
6	スズメ	カラス	カケス	○	○
7			ハシブトガラス	○	○
8		シジュウカラ	コガラ	○	○
9			ヤマガラ	○	○
10			ヒガラ	○	○
11			シジュウカラ	○	○
12			ウグイス	ウグイス	○
13		ヤブサメ		○	
14		エナガ	エナガ	○	○
15		ムシクイ	エゾムシクイ	○	
16		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○
17		ミソサザイ	ミソサザイ	○	○
18		カワガラス	カワガラス		○
19		ヒタキ	コルリ	○	
20			キビタキ		○
21			オオルリ	○	
22		アトリ	イカル		○
計	4目	13科	22種	17種	18種

注)種名および種の配列は「日本鳥類目録 改定第7版」(日本鳥学会編 2012)に従った。

森林で通常見られる種が確認された

観点2 価値

基準：森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている

指標：森林の被害状況

○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか。被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

▼山火事・山腹崩壊及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況

山火事	なし
山腹崩壊・地すべり	なし
病虫害	なし
鳥獣害	シカによる樹皮剥ぎ（次スライド）
気象害	なし

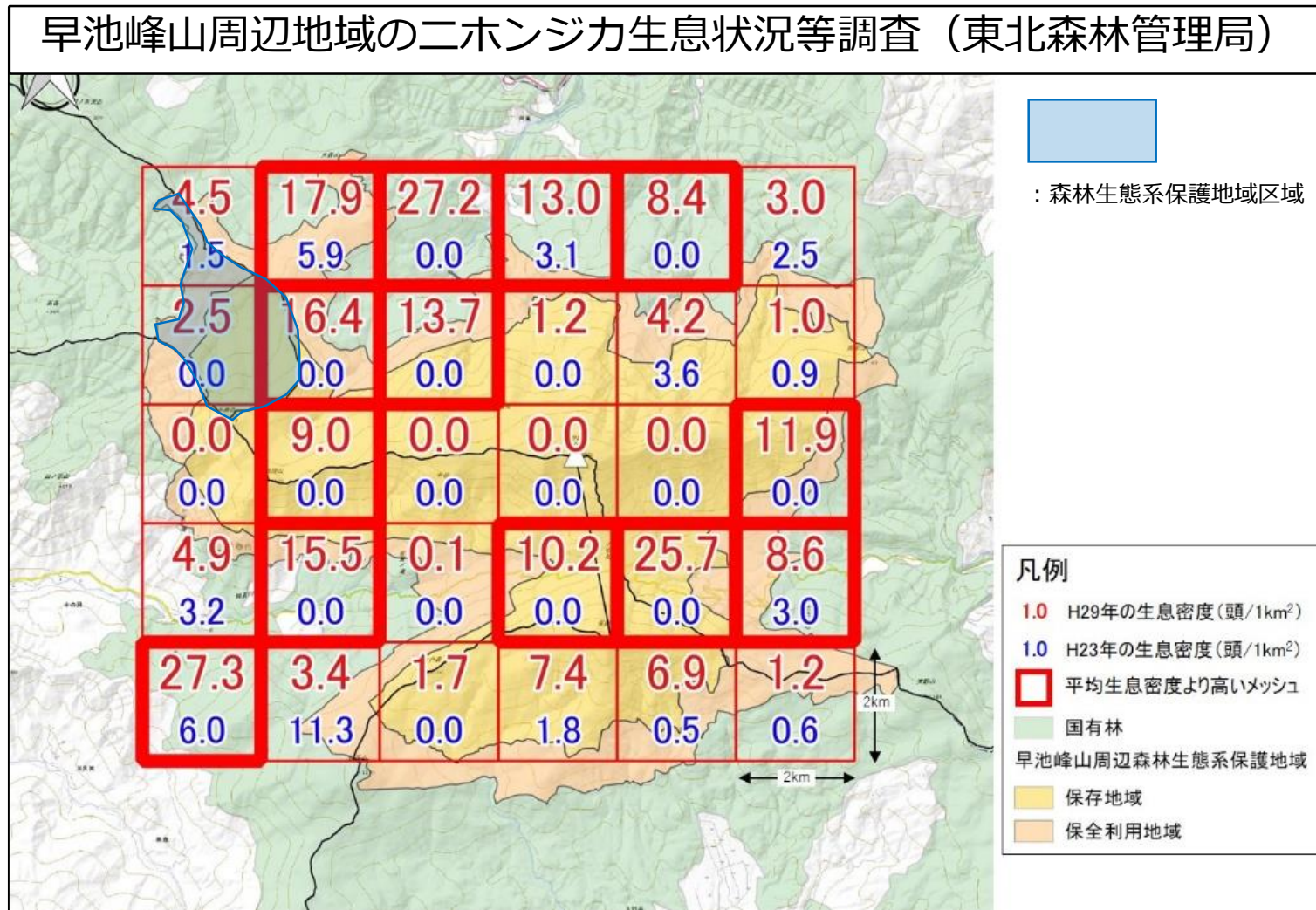
※管轄森林管理署への聞き取り、現地調査による



プロット1 ブナの樹皮剥ぎ

ニホンジカによる樹皮剥ぎが確認された

※早池峰山周辺地域におけるシカの生息状況



平成23年度および平成29年度の糞粒法によるシカ生息密度（頭/km²）

ニホンジカの生息密度が高くなっている

価値に関する評価

- 基準：森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている
- 指標：野生生物の生育・生息状況、森林の被害状況

- ・ 下層植生の生育状況に目立った変化は確認されなかった
- ・ 外来種は確認されなかった
- ・ ニホンジカによる樹皮剥ぎが確認されたが、植生衰退の兆候は見られていない

観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

▼学術研究での利用状況

- ・インターネットによる論文検索で、早池峰地域に関連して下記の論文が確認された
 - 「早池峰山に分布するヒメコザクラにおける異型花柱性(本城ほか)」、
 - 「東北地方におけるヒメスズムシソウの初記録(藤井ほか)」、
 - 「早池峰山高山帯から亜高山帯におけるチョウ類群集の定量調査(鈴木ほか)」ほか
- 特に、ニホンジカに関する論文については、次のものが確認された
 - 「早池峰山南面登山道周辺におけるニホンジカの食痕調査（鈴木,2018）」
- ・森林管理署への聞き取りでは、学術研究での入林は確認されなかった

利活用に関する評価

- 基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている
- 指標：学術研究での利用

学術研究への利用が確認された

▼巡視等の実施状況

- ・ 盛岡森林管理署では、定期的な巡視を実施している。
- ・ 林野巡視の際には、二ホンジカの日撃情報についてチェックシートで整理している。
- ・ 東北森林管理局で平成23年より継続して早池峰山周辺地域における二ホンジカの生息状況調査を実施している。

管理体制に関する評価

- 基準：適切な管理体制が整備されている
- 指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

状況に対応した必要な管理体制が取られている

- ・ 保護林のエリアではシカの生息が増加傾向
- ・ シカの生息状況に注視する必要

<p>今回の評価を踏まえた 今後の対応について</p>	<p>「保護・管理及び利用に関する事項」 (保護林管理方針書)</p>	<p>モニタ リング 間隔</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な巡視を継続 ・ 5年後に モニタリングを実施 	<p>保存地区については、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねるものとする。保全利用地区については、木材生産を目的とする森林施業は行わないものとする。</p> <p style="color: red;">また、ニホンジカの個体数が増加傾向にあり、周辺地域での生息状況及び保護林内の森林への影響を継続して注視する（北上川上流森林計画区）。</p>	<p>5年</p>

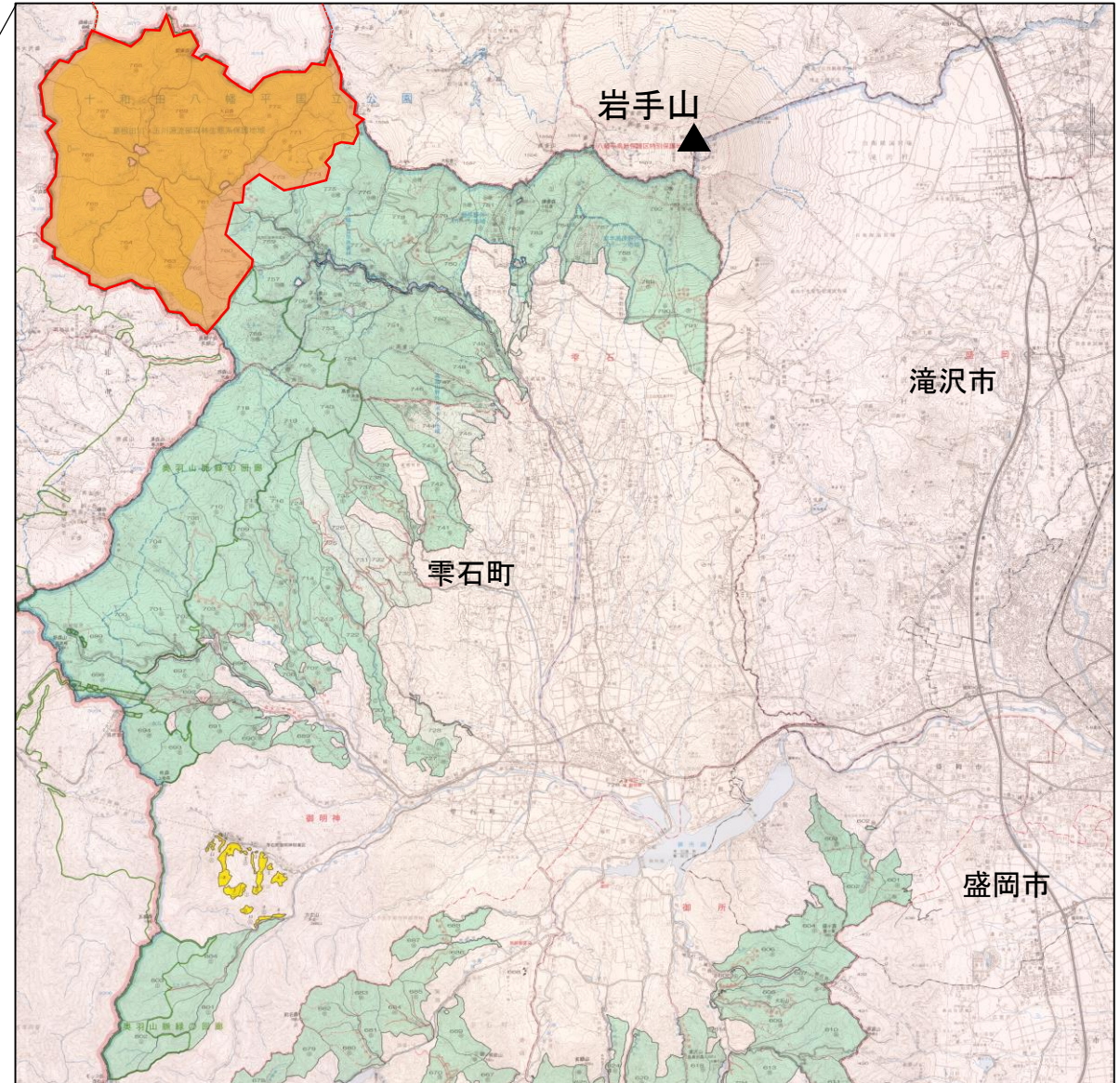
葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域 【北上川上流森林計画区】



葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域（北上川上流森林計画区）

[概要]

- ・ 位置 岩手県雫石町北葛根田国有林（ほか）
- ・ 個体群 オオシラビソ及びブナを中心とする
原生的な天然林
- ・ 面積 4,772.77ha（北上川上流森林計画区）
※9,391.36ha（全体）
- ・ 法指定 水源かん養保安林、十和田八幡平
国立公園
- ・ 森林管理署名 盛岡森林管理署



観点1 デザイン

基準：気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林を主体とした森林が維持されている

指標：原生的な天然林等の構成状況

○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成がどのように変化しているか、保全利用地区においては、天然林への移行が進んでいるか

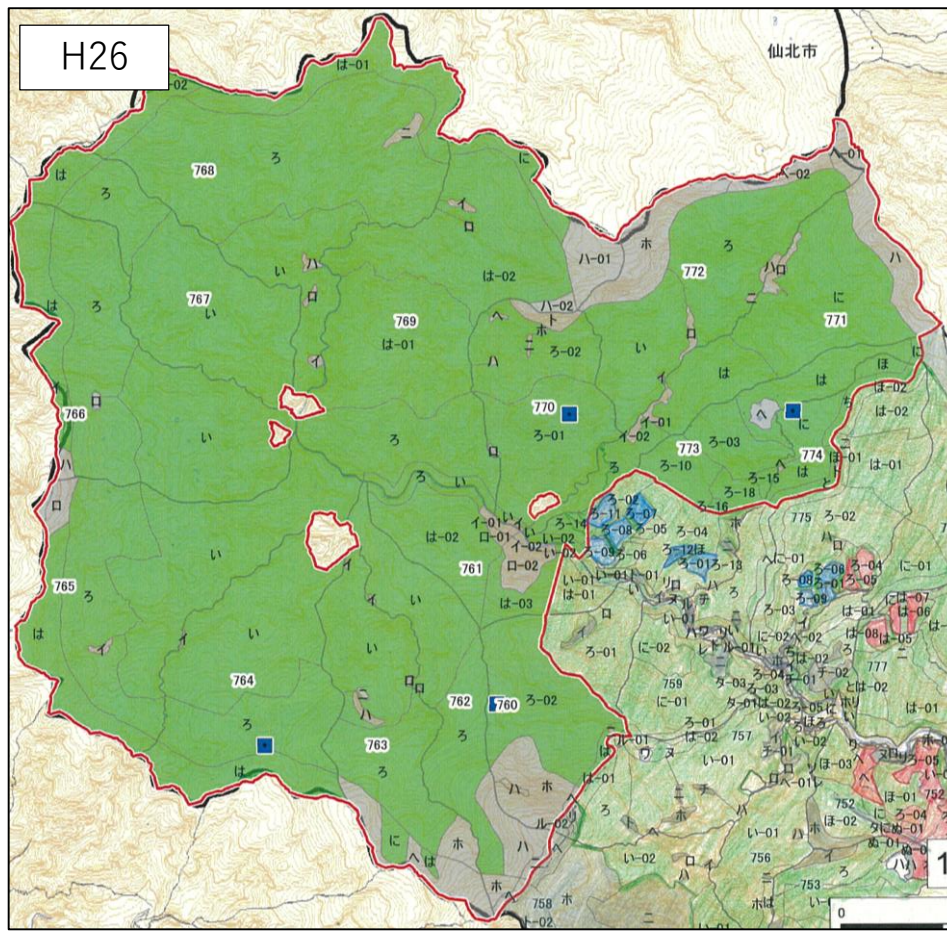
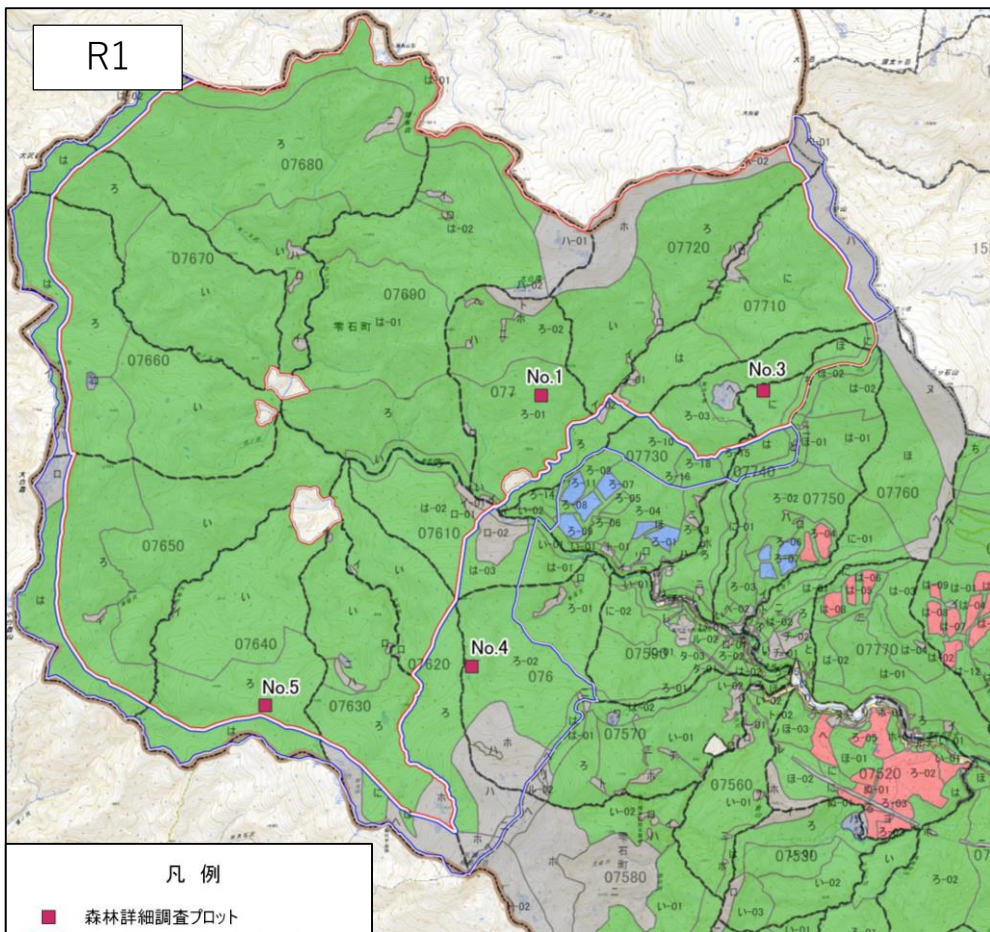
- ・資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が原生的な天然林たるべき状態にあるか

- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況の観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

▼ 森林タイプの分布状況



凡例

- 森林詳細調査プロット
- 森林生態系保護地域：保存地区
- 森林生態系保護地域：保全利用地区

森林タイプ

- 国有林：天然生林
- 国有林：育成天然林
- 国有林：人工林1(樹齢21年生以上)
- 国有林：人工林2(樹齢20年生以下)
- 国有林：林地外

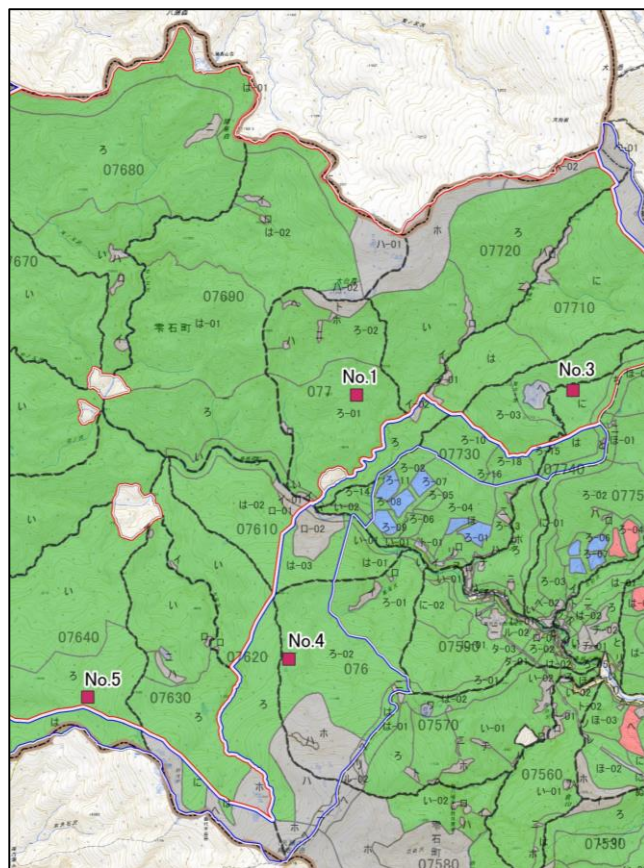
□ 林班界
 □ 小班界
 □ 市町村界
 □ 県境界

下図画像：国土地理院の電子地形図(タイル)を使用

保護林区域内訳	R1		H26	
	保全利用地区	保存地区	保全利用地区	保存地区
天然生林	650.97ha	3684.12ha	650.98ha	3684.12 ha
育成天然林	—	—	—	—
人工林1	—	—	—	—
人工林2	—	—	—	—
林地外	243.01ha	194.67ha	243.00ha	194.67ha
合計	893.98ha	3878.79ha	893.98ha	3878.79ha

保護林及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった

▼樹木の生育状況



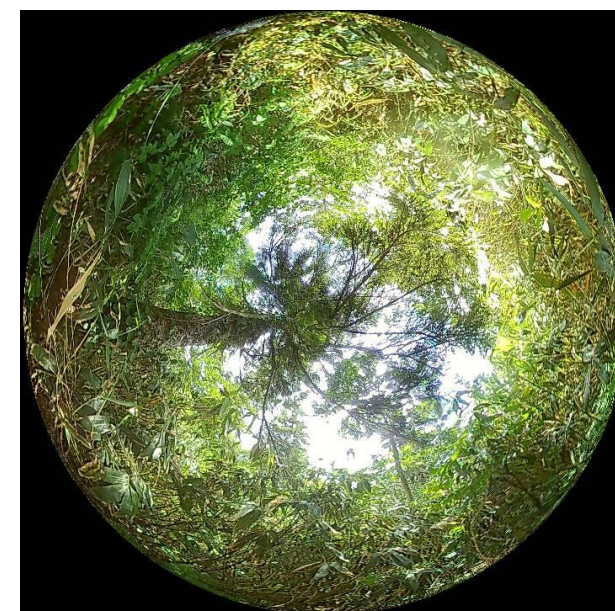
プロット1



全天球写真 プロット1



プロット3



全天球写真 プロット3

▼樹木の生育状況



プロット4



全天球写真 プロット4



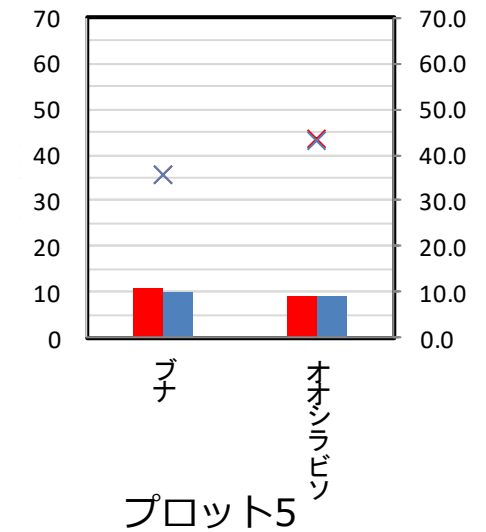
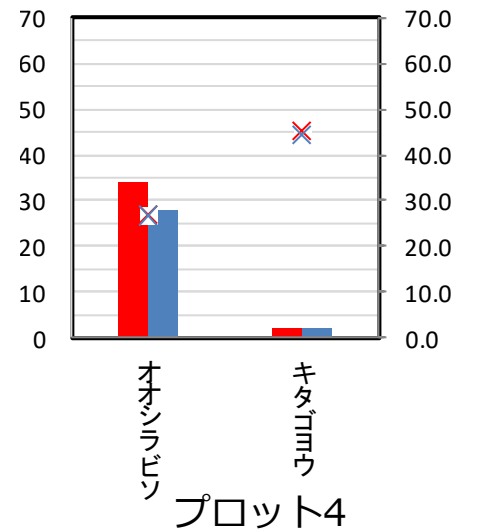
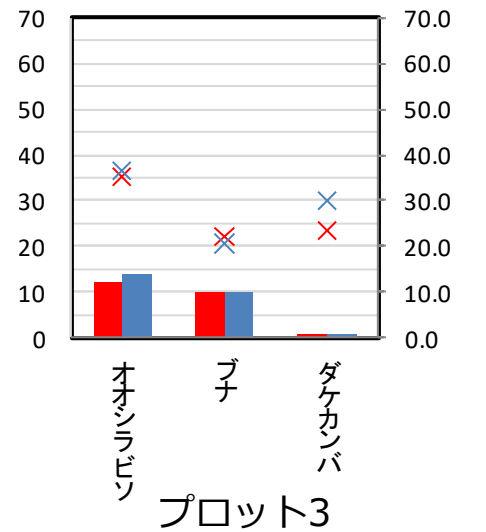
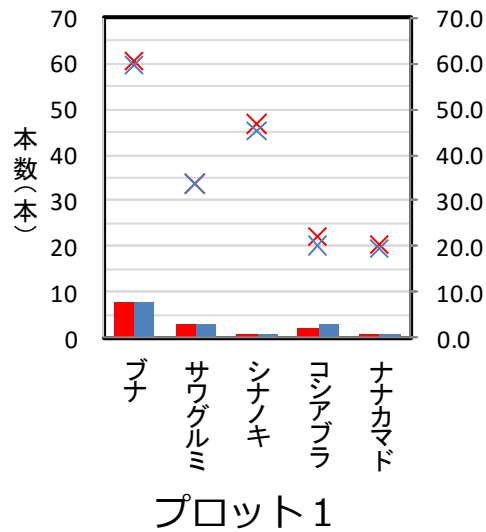
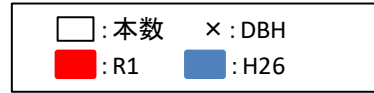
プロット5



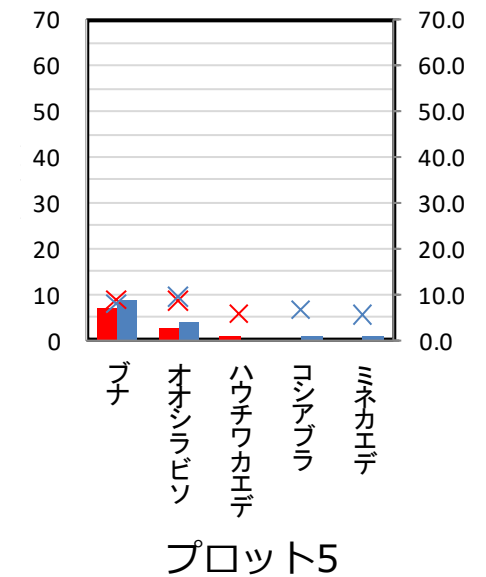
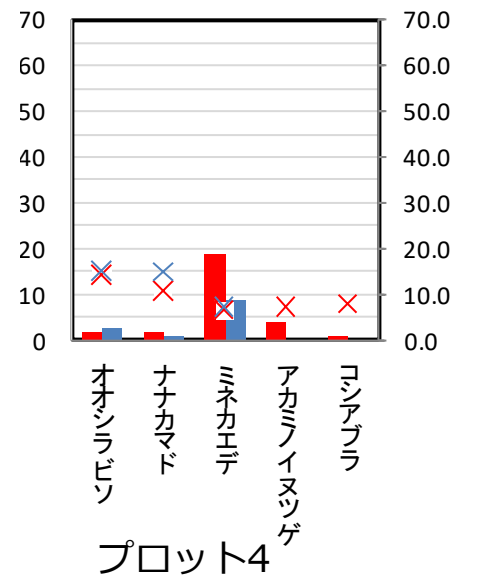
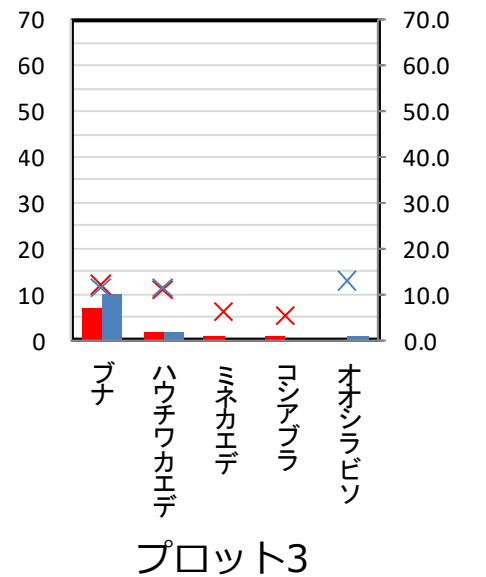
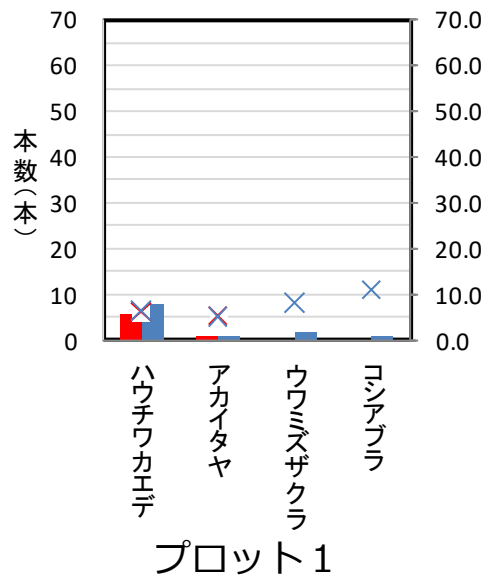
全天球写真 プロット5

樹木の生育状況に目立った
変化は確認されなかった

▼樹木の生育状況



大径木の樹種別の本数・胸高直径



中径木の樹種別の本数・胸高直径

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

デザインに関する評価

- 基準：気候帯又は森林帯を代表する原生的な天然林を主体とした森林が維持されている
- 指標：原生的な天然林等の構成状況

- ・ 森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった
- ・ 樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

観点2 価値

基準：森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている

指標：野生生物の生育・生息状況

○調査項目1：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 種数は豊富か、外来種や特定の植物のみが増えていないか

- ・森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察

○調査項目2：野生動物の生息状況調査

[評価の観点] 地域の気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林として着目すべき野生動物が生息しているか

- ・動物調査：自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生動物の生息状況を記録

▼下層植生の生育状況



プロット1



プロット3



プロット4



プロット5

▼下層植生の生育状況

種名	プロット1		プロット3		プロット4		プロット5	
	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26
ヒメモチ	○	○	○	○	○	○	○	○
コシアブラ	○	○	○	○	○	○	○	○
オオカメノキ	◎	○	○	○	○	○	○	○
ツルシキミ	○	○	○	○	○	○	○	○
ブナ	○	○	○	○			○	○
タムシバ	○	○			○	○	◎	○
ナナカマド		○	○	○		○	○	○
オオシラビソ			○	○	○	○	○	○
ミネカエデ			○		◎	○	○	○
ハイヌツゲ			○		○	○	○	○
ハウチワカエデ		○		○	○	○		
オオバスノキ				○	○	○		○
ノリウツギ			○		○		○	○
ウワミズザクラ	○	○	○					
アケシバ	○		○	○				
コヨウラクツツジ			○		○		○	
ツノハシバミ	○		○					
オオバクロモジ	○	○						
エゾアジサイ	○	○						
エゾユズリハ	○	○						
アカイタヤ	○			○				
アカミノイヌツゲ					○	○		
ヒメアオキ	○	○						
ハクサンシャクナゲ					○	○		
ミヤマホツツジ			○		○			
ヤマウルシ			○					○
ウラジロヨウラク					○			○
ガマズミ	○							
ハイヌガヤ		○						
サワグルミ		○						
シナノキ		○						
ダケカンバ				○				
エゾヤマザクラ				○				
ヒメウスノキ					○			
キタゴヨウ						○		
クロウスゴ							○	
ヒメクロウスゴ							○	
トウゲシバ			○		○		○	
ツルアリドオシ	○	○	○	○	○	○	○	○

種名	プロット1		プロット3		プロット4		プロット5	
	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26
チシマザサ	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
ツクバネソウ	○	○	○	○	○		○	○
ヤマソテツ	○	○	○			○	○	○
シノブカグマ	○		○	○		○	○	
ミツバオウレン			○		○	○	○	○
ツルリンドウ			○	○	○	○		○
イワガラミ	○	○	○					○
ホソバトウゲシバ		○		○		○		○
ツバメオモト			○	○			○	○
マイヅルソウ			○		○		○	○
ツルアジサイ	○		○				○	
ヒヨウノセンカタバミ	○	○		○				
ツタウルシ	○	○	○					
タチシオデ	○	○					○	
シラネワラビ			○				○	
トウゴクサイシン			○				○	
ギンリョウソウ			○			○		
ショウジョウバカマ					○	○		
ヒメタケシマラン					○		○	
ホソバナライシダ	○							
カラクサイヌワラビ	○							
タニギキョウ	○							
アケボノシュスラン	○							
サカゲイノデ		○						
サンカヨウ			○					
ヒメゴヨウイチゴ			○					
ベニバナイチゴ			○					
ハリブキ			○					
ユキザサ			○					
タケシマラン			○					
オクノカンスゲ			○					
キソチドリ			○					
シシガシラ					○			
イブキゼリ					○			
イワカガミ					○			
オンダ							○	
ゴヨウイチゴ							○	
ハリガネワラビ								○
ウスバサイシン								○
ズダヤクシュ								○
ジンバイソウ								○
スゲ属の一種	○	○						
種数	30種	27種	40種	20種	29種	23種	30種	28種

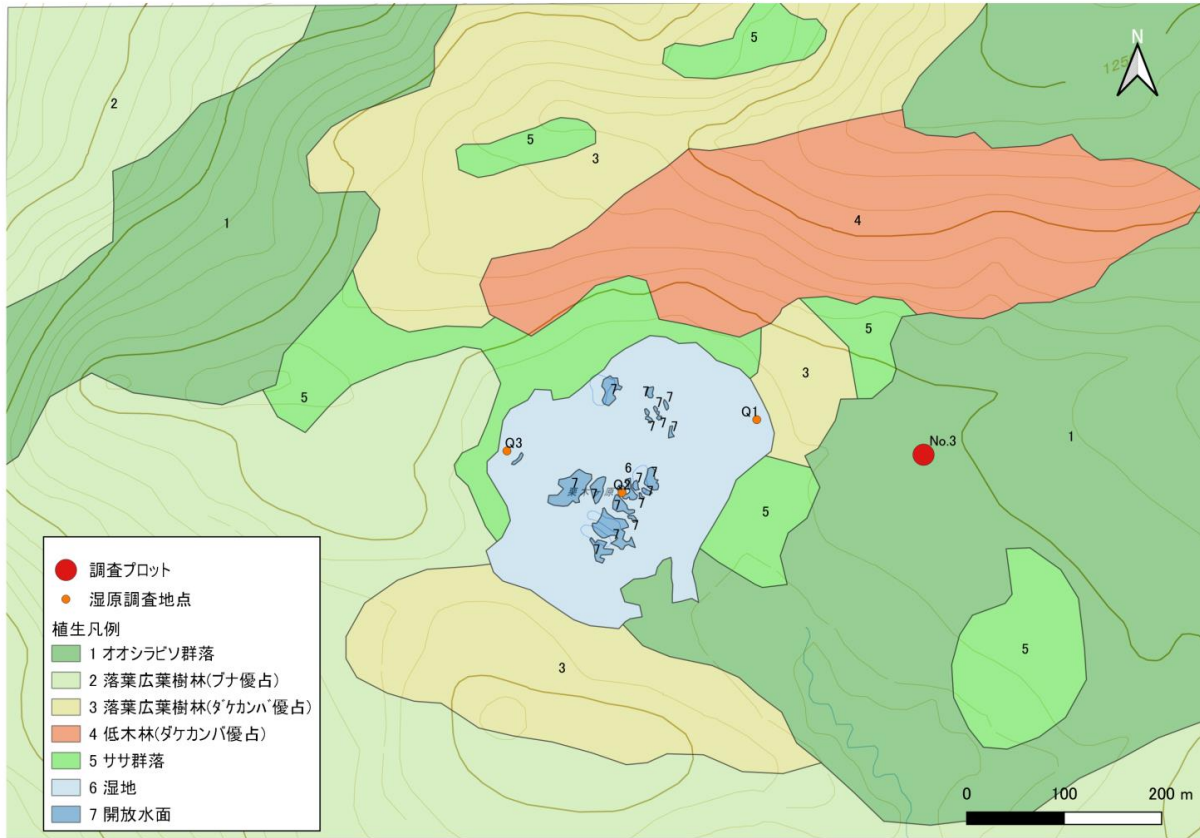
注1) H26年度はプロット内全てが、R1年度はN区,S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。

注2) ○：確認種、◎：優占種(R1のみ)

下層植生の生育状況に目立った変化は見られない

▼下層植生の生育状況

プロット3 湿原



湿原の状況(H26)



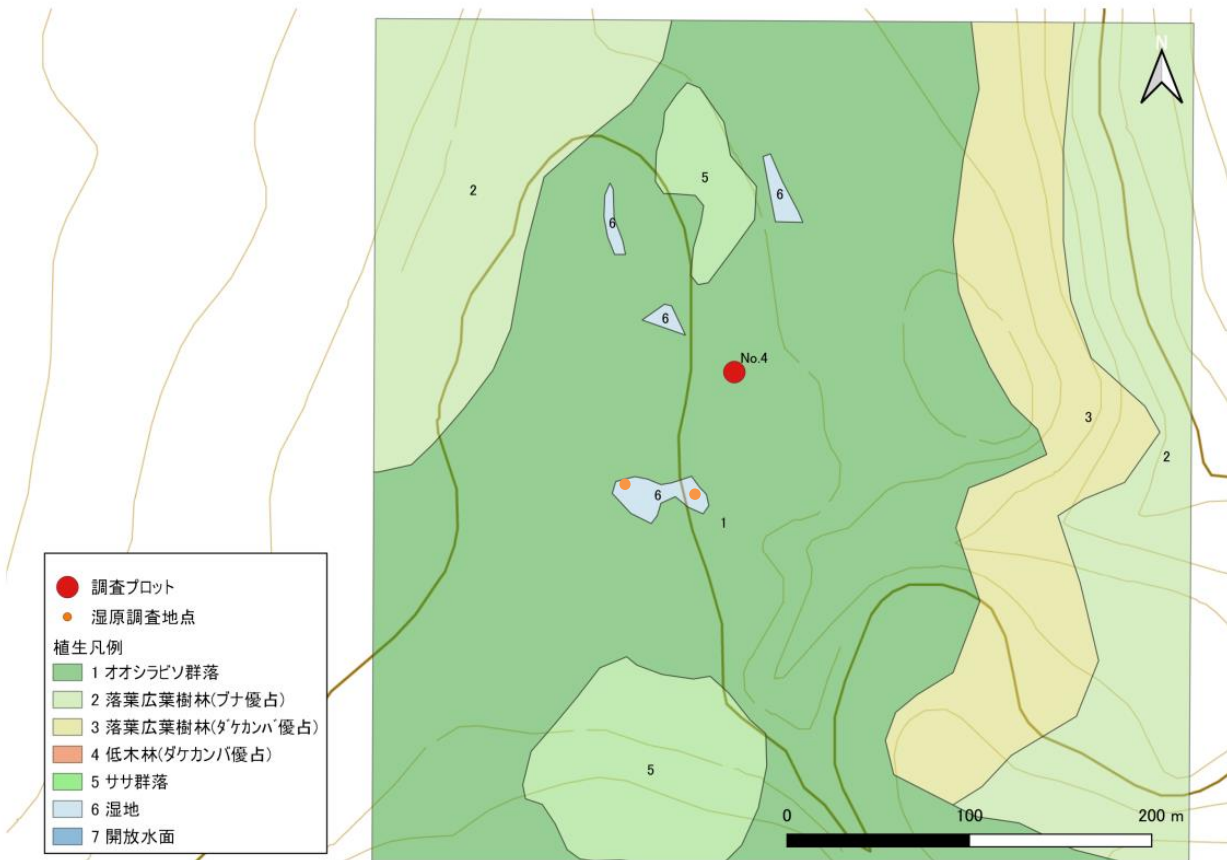
湿原の状況(R1)

湿原の植生(R1)

湿原の植生の生育状況に目立った変化は見られなかった

▼下層植生の生育状況

プロット4 湿原



湿原の植生(R1)



湿原の状況(H26)



湿原の状況(R1)

湿原の植生の生育状況に目立った変化は見られなかった

▼野生動物の生息状況（哺乳類）

No.	科名	種名	No.1		No.3		No.4		No.5	
			R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26
1	モグラ	アズマモグラ						○		○
2	イヌ	ホンドギツネ	○	○			○			
3	クマ	ツキノワグマ	○	○	○	○	○	○	○	○
4	イタチ	ホンドテン		○	○	○	○	○	○	○
5		ニホンアナグマ			○		○			
6	ジャコウネコ	ハクビシン							○	
7	ウシ	カモシカ	○		○		○	○		
8	リス	ニホンリス					○			
9	ネズミ	ネズミ科の一種			○	○				
10	ウサギ	トウホクノウサギ		○		○	○		○	
計			3種	4種	5種	4種	7種	4種	4種	3種

森林で通常見られる動物が確認された

▼野生動物の生息状況調査
(鳥類)

No.	目名	科名	種名	No.1		No.3		No.4		No.5	
				R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26
1	キジ	キジ	ヤマドリ				○				
2	ハト	ハト	キジバト		○	○		○		○	
3			アオバト								○
4	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ					○			
5			ホトギス					○			
6			ツツドリ	○							
7			カッコウ	○		○		○		○	
8	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ				○				
9	タカ	タカ	トビ			○					
10	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○			○		○		
11			アカゲラ		○	○	○				○
12	スズメ	モズ	モズ			○		○			
13			モズ属sp.				○				
14		カラス	カケス	○	○	○		○	○	○	
15			ホシガラス		○		○	○	○	○	○
16			ミヤマガラス			○					
17			ハシブトガラス	○	○	○		○	○	○	○
18		キクイタダキ	キクイタダキ				○	○	○	○	○
19		シジュウカラ	コガラ		○		○	○	○	○	○
20			ヤマガラ		○		○	○	○	○	○
21			ヒガラ	○	○	○	○	○	○	○	○
22			シジュウカラ	○	○		○	○	○	○	○
23		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○			○	○	○	○	
24		ウグイス	ウグイス		○	○	○	○	○	○	○
25			ヤブサメ		○		○				○
26		エナガ	エナガ	○	○		○		○		○
27		ムシクイ	オオムシクイ							○	
28			メボソムシクイ					○			
29			エゾムシクイ	○		○					
30		メジロ	メジロ		○		○				
31		レンジャク	ヒレンジャク							○	
32		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○		○		○	○	○
33		ミソサザイ	ミソサザイ	○	○			○		○	○
34		ムクドリ	コムクドリ		○						
35		カワガラス	カワガラス		○						
36		ヒタキ	トラツグミ	○							
37			マミチャジナイ							○	○
38			ツグミ	○				○		○	
39			コルリ	○		○		○	○	○	
40			ルリヒタキ	○	○	○	○	○		○	○
41			キビタキ	○	○	○		○	○	○	
42			オオルリ	○				○			
43		セキレイ	キセキレイ		○						
44		アトリ	アトリ							○	
45			カワラヒワ								○
46			マヒワ				○	○	○	○	
47			オオマシコ					○			
48			ウソ	○		○		○		○	
49			イカル						○		
50		ホオジロ	ホオジロ						○		
51			カシラダカ							○	
52			クロジ					○		○	
計	7目	24科	51種	19種	20種	15種	19種	23種	17種	24種	17種

注)種名および種の配列は「日本鳥類目録 改定第7版」(日本鳥学会編 2012)に従った。

森林で見られる通常の鳥類が
確認された

観点2 価値

基準：森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている

指標：森林の被害状況

○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか。被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

▼山火事・山腹崩壊及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況

山火事	なし
山腹崩壊・地すべり	なし
病虫害	なし
鳥獣害	なし
気象害	なし

※管轄森林管理署への聞き取り、現地調査による

森林被害は確認されなかった

価値に関する評価

- 基準：森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている
- 指標：野生生物の生育・生息状況、森林の被害状況

- ・ 下層植生の生育状況に目立った変化は確認されなかった
- ・ 外来種は確認されなかった
- ・ 野生動物の生息が維持されている
- ・ 森林被害は確認されなかった

観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

▼学術研究での利用状況

- ・インターネットによる論文検索では、葛根田川・玉川源流部地域に関連して下記の論文が確認された

「八幡平山系の山地湿原の気候変動への応答（安田,2017）」

- ・森林管理署への聞き取りでは、学術研究での入林は確認されなかった

利活用に関する評価

- 基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている
- 指標：学術研究での利用

葛根田川・玉川源流部地域に関連した学術研究への利用が確認された

▼巡視等の実施状況

- ・ 定期的な巡視を実施している。
- ・ 保護林下流の車両通行可能箇所までオオハンゴンソウが侵入してきており、十和田八幡平国立公園管理事務所等主催の駆除作業に参画し、連携して外来種防除に取り組んでいる。
- ・ 林野巡視の際には、オオハンゴンソウが周辺に拡大していないか留意している。

管理体制に関する評価

- 基準：適切な管理体制が整備されている
- 指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

状況に対応した適切な管理体制が取られている

前回調査から大きな変化は認められなかった

特に課題は確認されなかった

<p>今回の評価を踏まえた 今後の対応について</p>	<p>「保護・管理及び利用に関する事項」 (保護林管理方針書)</p>	<p>モニタ リング 間隔</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な巡視を継続 ・ 10年後に モニタリングを実施 	<p>保存地区については、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねるものとする。保全利用地区については、木材生産を目的とする森林施業は行わないものとする。</p> <p>[※現行どおりとする]</p>	<p>10年</p>